



実用新案登録願

昭和 55 年 8 月 26 日

特許庁長官 川原 能雄 殿

フリガナ
1. 考案の名称

レコク
消火器

2. 考案者

フリガナ
住 所

フリガナ
氏 名

実用新案登録出願人と同じ

3. 実用新案登録出願人

フリガナ
住 所

フリガナ
氏 名 (名称)

(国 籍)

イコマシ カルイダフチヨク
奈良県生駒市軽井沢町 17 番 10 号

フシ イ トシ ヒコ
藤 井 俊 彦

4. 代理人 〒550

住 所 大阪市西区西本町 1 丁目 12 番 19 号

氏 名 清友ビル 206 号電話 (06) 541-5031

(7747) 免理士玉 利 富 二 郎

5. 添付書類の目録

✓(1) 明細書 1通

(3) 願書副本 1通

✓(5) 出願審査請求書

特許庁

55. 8. 26

出願第二課

1 検 戸

(2) 図 面 1 通

(4) 委任状 1 通

55 121489

方式
登 査



45955

明 細 書

1. 考案の名称

消火器

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 容器本体内に消火剤と不燃性又は難燃性の布とを収納すると共に、前記容器本体の上部開口を蓋体で開蓋可能に密閉してなり、火災時には前記蓋体を開蓋して消火剤と不燃性又は難燃性の布とを使用すべくしたことを特徴とする消火器。

(2) 前記蓋体は、その上面には把持部材を設け、裏面には折り畳んでなる不燃性又は難燃性の布の一部を吊着すると共に、該蓋体の容器本体との縁巻部と開蓋部との境界線に切目を形成し、この切目を前記把持部材の先端のカッター部で押圧切断して、該把持部材を上方へ引張ると前記蓋体の開蓋部が一挙動で開蓋されるべくしてなり、さらに不燃性又は難燃性の布の下部の容器本体内には消火剤を収納してなる実用新案登録請求の範囲第(1)

項記載の消火器。

3. 考案の詳細な説明

この考案は小型の消火器に関し、その目的とするところは、殊に台所での調理中に、或は石油ストーブ若しくはアイロン等の使用中に発生した小火（ぼや）を、簡単な構造のもので、何人でも簡単に操作し得て、手早く消火できるものを提供することを主目的とするものである。

従来より、この種消火器は、火災の種別に応じて一般用、油用、電気用等の器種が定まっており、各器種の構造に応じて、例えば、ホースを外し、安全ピンを抜き、レバー操作で消火剤を放射する方式あり、或はレバー操作後に容器本体を転倒して放射する方式ありで、その取扱方法に画一性がなく、極めて煩雑な操作を要し、その取扱方法を讀んでから作動させていたのでは寸秒を争う火災現場では初期消火の目的を達成し得ない。

たとえ、簡単な操作で済む器種のもので、そ

の消火器を使いこなすためには、平素から取扱方法を習得している者でなければ、寸秒を争う火災現場で何人でも迅速に使用しえないのが実情である。まして、子供や老人などがす早く使用しえるものではない不都合がある。

また、従来の消火器は、台所での調理中の小火程度の初期火災に対しては大規模すぎて、消火不要の物に対してまで消火剤が飛散し、濡れたり、汚損したりして、その後始末に困る不都合がある。

さらに、加圧式消火器を例とすれば、高圧ポンプ、その撃針、及びその撃針を下動させるレバー、並びに消火剤放出管、そのレバー、その他ホース等の多数の構成部品を必要とし、構成が複雑となり、生産コストも高価となる上に、年に1回は消火剤やガス量の点検、詰替が必要であり、保守管理上、煩わしい不都合がある。

この考案は、上記不都合を解消するものであつて、構造、使用、被消火物の汚損並びに保守管理

の各面で優れたものを提供するものである。

この考案の一実施例を第1図と第2図に基づいて説明すれば、(1)は容器本体であつて、該容器本体(1)の下端縁と底板(2)の端縁と縁巻し、該縁巻部間にはパッキンを介装して容器本体(1)内の気密状態を維持してなる有底の筒状に形成してある。容器本体(1)内の気密性をより高めるために、容器本体(1)と底板(2)とを一枚の板で絞り加工してなるものでもよい。この容器本体(1)内の下部には炭酸水素ナトリウム(重曹)又は磷酸アンモニウム等の粉末消火剤(3)を充填し、該粉末消火剤(3)上方の容器本体(1)内には、不燃性又は難燃性の布(4)を折り畳んで収納して、前記容器本体(1)の上端縁を蓋体(5)の縁巻部(5a)と縁巻し、該縁巻部間にはパッキンを介装して同容器本体(1)の内部を外気と遮断すべく密閉してある。

前記蓋体(5)は、前記縁巻部(5a)と、該縁巻部(5a)に連続して一体的に形成した開蓋部(5b)とか

らなる。縁巻部 (5a) の内側には内向き鐫部 (6) が形成されていると共に、該鐫部 (6) の径方向中央には環状割溝 (7) が形成され、該環状割溝 (7) を形成する鐫部 (6) の下面 (6a) と前記開蓋部 (5b) の端縁との境界線に切目 (8) を刻設してある。そして前記開蓋部 (5b) の端縁近くの上面には、前記切目 (8) の一部を切断するカッター部 (9) と指差込用のリング部 (10) とを有する把持部材 (11) が、押し上げ可能に固着してある。そこで、リング部 (10) に指を挿入して押し上げて上方へ引張ると、カッター部 (9) が切目 (8) を押圧切断しつつ、開蓋部 (5b) が一挙動で手早く開蓋される。

実施例では、蓋体 (5) の裏面に係止部 (12) を垂下して、該係止部 (12) に前記不燃性又は難燃性の布 (4) の一部を係止し吊着して折り畳んで容器本体 (1) 上部に収納してある。不燃性又は難燃性の布 (4) を蓋体 (5) の裏面に吊着する方法としては、上記方法に限らず、例えば糊や接着剤で貼着するとか、或は融

着などでもよい。かかる構成によれば、蓋体(5)の開蓋と同時に不燃性又は難燃性の布(4)が、蓋体に吊着された状態で取り出されるので、第2図示の如く、この不燃性又は難燃性の布(4)を展開して、す早く火を被覆し、或はたたいて消火することができる。

なお、容器本体(1)上端部と蓋体(5)との結合方法としては、前記実施例の巻締め手段に限らず、例えば、容器本体(1)上端部に形成した雄ねじ部と、蓋体(5)に形成した雌ねじ部との螺合方法でもよく、この場合にも容器本体(1)内を気密にするために、蓋体(5)の雌ねじ部の終端に環状パッキンを嵌装するとよい。しかし、この場合は蓋体(5)の開蓋速度が、前記実施例に示した蓋体(5)のものより遅いので、ワンタッチ操作で迅速に開蓋される前記実施例の如き構造の方が望ましい。

また、前記実施例では、不燃性又は難燃性の布(4)の一部を蓋体(5)の裏面に吊着しているが、かか

る構成をとることなく、不燃性又は難燃性の布(4)を単に折り畳んで容器本体(1)に収納し、蓋体(5)を開蓋してその不燃性又は難燃性の布(4)を手で取り出して消火するものでもよい。しかし、この場合は手で不燃性又は難燃性の布(4)を把持し取り出す手間がかかるから、前記実施例の如き構造の方が望ましい。

以上の構成からなるこの考案によれば、蓋体(5)を容器本体(1)より開蓋するだけで、消火剤(3)と不燃性又は難燃性の布(4)との2つの消火手段が、直ちに取り出せるから、従来の消火器に比して、操作が極めて簡単で、何んらの訓練も要せず、子供や老人などでも消火できる利便がある。また、この考案は容器本体(1)とその蓋体(5)と消火剤(3)と不燃性又は難燃性の布(4)のみで製品化できるから、構成部品が少なく、構造が簡単であり、小型化が図られる。それ故、小火程度の火災の場合には、通常の消火器によれば大規模すぎて消火剤が消火

する必要のない物にまで飛散し、汚損し、後始末に困るが、本案品によればこのような不都合が解消される。このように本案は小型化できて、消火剤と不燃性又は難燃性の布との2つの消火手段を有するから、台所で油料理をしている際にその油より出火して小火を起した場合などに、本案品の蓋体(5)を手早く開蓋して、不燃性又は難燃性の布(4)を展開して該小火を被覆して空気を遮断して鎮火することができる。この不燃性又は難燃性の布(4)にて消火できないときは、先ず消火剤(3)をふりかけ、しかる後に不燃性又は難燃性の布(4)を該火に被覆して、2つの消火手段で消火に当ることができる。前記不燃性又は難燃性の布(4)は、火災の種別如何によつては、これでたたいて消火することもできる。しかも、煙が充満した場合には、前記不燃性又は難燃性の布(4)を口に当てて防煙マスクとしても利用できる利便がある。さらに、本案品は缶詰状に密封してあるから、使用するまでは

相当長期間に亘り保守管理なしに使用できる。加えて、本案は既述した如く構成部品が少なく、構造が簡単で、組立も極めて短時間になし得るので、安価なものとなる。

なお、実用新案登録請求の範囲第(2)項に記載した如く、蓋体(5)を容器本体(1)に対して一挙動で開蓋できる構成とすれば、既述した如く最も早く消火手段を取り出せるから、寸秒を争う火災現場では類をみないほど迅速に消火活動をなし得るし、また蓋体(5)の裏面に不燃性又は難燃性の布(4)を吊着した構成によれば、開蓋した蓋体(5)を把持したままで該布(4)を展開して消火に当ることができる利便がある。

4. 図面の簡単な説明

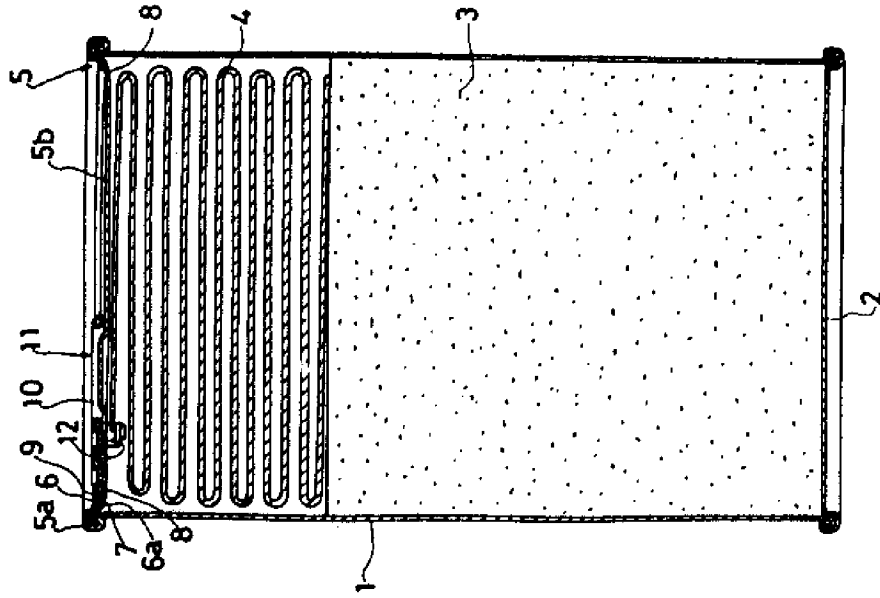
図は何れもこの考案の一実施例を示すものであって、第1図は縦断面図、第2図は第1図の蓋体を不燃性布と吊着状態で取り出した部分斜視図である。

(1) … 容器本体、(3) … 消火剤、(4) … 不燃性又は難燃性の布、(5) … 蓋体、(5a) … 縁巻部、(5b) … 開蓋部、(8) … 切目、(9) … カッター部、(10) … リング部、(11) … 把持部材、(12) … 係止部。

実用新案登録出願人 藤 井 俊 彦

代 理 人 弁理士 玉利 富 二 郎

第1図



第2図

